

フィジー国 Ba 県におけるインド系サトウキビ生産者と土着フィジー系土地所有者間の土地紛争の潜在的原因としての自覚なき人種差別の評価

ムダリア シブニット クリサン

キーワード: 人種差別要因、人種間敵対、土地保有紛争、民族紛争、人種間協力メカニズム

1. はじめに

1.1. 背景 - 最近の統計では、フィジーのインド農民の数が大幅に減少していることが確認されている。観測された傾向の直接的な説明として、土地所有権の衝突が注目されている。サトウキビの生産と輸出の減少も指摘されている。多くの報告書は、人種差別主義が土地所有権の衝突の原因であると示唆しているが、科学的証拠は提供していない。

1.2. 目的 - この研究は、土地所有権紛争の 6 つの異なるバリエーションに関する 14 の人種差別要因を調査し、各要因の重要性を評価することを目的とする。加えて、研究対象地区における紛争解決策を提案することを目的とする。

2. 文献レビュー及び 理論的・概念的枠組み

現在の研究課題に関する既存の研究は、存在する人種差別要因を検証するための関連する量的データを提供することができない。そこで、新たに人種差別主義理論とグループ間葛藤理論を統合した枠組みを提示し、研究課題に適用した。

3. 研究の方法

この研究では、サウェニ、カーシャ及びララワイの3地区から、186名のインド・フィジー農家を層別サンプリング法により抽出した。アンケート調査及び半構造化インタビューによって、人種差別要因と土地所有権紛争のデータを得た。また、解決策を検討するために、フォーカス・グループ・ディスカッションを実施した。

4. 研究結果

分散と重回帰分析の統計分析は、土地保有紛争と人種差別要因 ($R^2_{ti \dots tvi} .91 \leq .96$; Cronbach $\alpha \geq 0.98$) との間有意に強い相関があることを明らかにした ($p \leq .05$)。また、人種間対処メカニズムの発見に基づいて、対象となる調査領域のための解決の方策を提示した。

5. 結論

結論として、人種差別要因は土地所有権の紛争と深く関連していると言える。よって潜在的な因果要因が存在する可能性があり、さらに調査が必要であると推測することができる。加えて、本研究は、フィジー系地主とインド系小作者の間の人種的な摩擦を最小限にするような解決策を提案することができた。